

8月27日(月)～9月25日(火) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 加藤 円夏

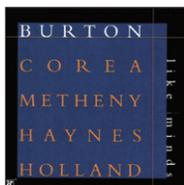


加藤 円夏

ラジオDJ、MC、TVナレーター。ロンドン在住経験を活かし、メディア業界での通訳、翻訳を経てラジオ媒体各局で音楽番組を担当。現在新たなスタイルでの音楽プログラムのスタート準備に向け、洋邦アンダーグラウンド、インディーズからメジャーまでの音楽発掘に注力中。今後の予定、活動については、ブログ、INSTAGRAM(Madoka Kato77)で展開していきます。

今回のセレクトCD

1.



Burton / Corea / Metheny / Haynes / Holland "Like Minds" (Concord / MVCL-24011)

昨年引退を発表したジャズ・ヴィブラフォン界の巨星、ゲイリー・パートン。滑らかで透明感あふれるヴィブラフォンの音色と美しいハーモニーは、まるで魔法のように涼しげな風を運んでくれるのです。アストル・ピアソラ、ラリー・コリエル、小曽根真などとのタッグでも有名なゲイリー・パートンですが、このアルバムはパット・メセニー、チック・コリア、ロイ・ヘインズ、デイヴ・ホランドと、贅沢すぎる程のメンバーで収録されています。ファンクなビートでまるで美しい織物がはぎれよく織り成されるかのような5曲目のタイトル・トラック、そして6曲目をゲイリーが作曲。デイ・タイムでもロマンチックなナイト・タイムにも耳に心地よいマスターピースです。

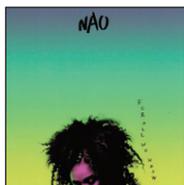
2.



Moonchild / Please Rewind (Tru Thoughts / TRUCD320)

南カリフォルニアのジャズ・スクールで出会い、2012年にアルバム・デビューした3人組。私が初めて彼等のサウンドを耳にしたのは、UKアシッド・ジャズ・シーンのキー・パーソンであり人気ラジオDJでもあるジャイルス・ピーターソンのラジオ番組でした。マイルドで幻想的、エリカ・バドゥを彷彿とさせるアンバー・ナヴランのヴォーカルが本当に素敵で、忙しく過ごした1日を終え、ほっとしながらようやく自分だけのプライベート・タイムを過ごしたい、そんなひと時にオススメしたい1枚です。体の力が心地よく抜け、深く呼吸しながら、うとうとと健やかに眠りへと誘う彼等のサウンドは、スティーヴィー・ワンダーやロバート・グラスパーをも魅了しています。

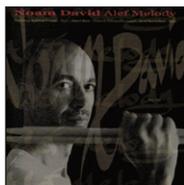
3.



Nao / For All We Know (Little Tokyo / Sony 88985304442)

ハスキーでファンキー、エレクトロニックで涼しげな透明感を持つUK発女性シンガー・ソングライター、ネイオの2016年のデビュー・アルバム。灼熱の夏にゴクゴクと飲みたい、そんな炭酸レモネードのようなパンチと甘酸っぱさが堪らないその歌声は、同じくUKのモダン・ソウル・アーティストのジャングル、ブルー・アイド・ソウルの実力派ロイス・ウッド・ジュニアにも支持され、彼等のプロデュースを受けて生まれた秀逸な1枚です。まるでカメレオンのようにキュートに表情を変えるファンク・サウンドをどうぞ。

4.



Noam David / Alef Melody (Tuff Beats / UBCA-1061)

モダン・ジャズ・シーンを牽引するイスラエル出身のアヴィシャイ・コーエン・トリオを支えるドラマー、ノーム・ダヴィドの2017年のデビュー・アルバム。トリオが持つ爽やかな疾走感とダイナミックなサウンド感はそのままだ、ワールドワイドでエキジチックな民族的ビートが流麗に融合した珠玉の1枚です。洗練され、大胆かつミステリアスなそのサウンドに身を委ねると、まだ行ったことのない彼方の地へと想いを馳せたくなるのです。

5.



Garth / Human Nature (Sweet Soul / SSRI0150)

ワシントンとボルティモアの丁度中間に位置するメリーランド州出身、リベラル・アーツの名門大学で学び、現在はNYで活動するガース。シルキーな歌声、安定感と包容力に満ちた正統派なヴォーカル・スキルは、彼が通って居た黒人教会で体得したものなのだろう。どこか古風なソウルを彷彿とさせるアルバム・ジャケットを心憎く裏切ってくれる音楽性の幅の広さ、これからの可能性に何だかドキドキさえてしまう、そんな1枚です。フランク・オーシャンからプリンス、マイケル・ジャクソン、ノーティ・ボーイに影響を受けたと公言する彼の、ガレージ・ロックからネオ・ソウルまでが見事にブレンドされた1枚。